

令和7年度 第2回 学校運営協議会議事録

日時 令和7年7月2日(水) 12:00～15:30

場所 下野市立緑小学校 会議室

参加者	田村 伸子 委員	小嶋 英史 委員	山中 英雄 委員	真分 喜治委員
	草川 奈津子 委員	中嶋 孝子 委員	井上 江梨子 委員	
	坪山 仁 地域学校協働活動推進員		海老原 忠 地域学校協働活動推進員	
	鈴木 寧子 校長	増淵 敦子 教頭	上野 友美 教務主任	
欠席者	石崎 真清 学校教育課指導主事	井上 啓太 地域連携教員		

1. 開会

- (1) 学校長あいさつ
- (2) 本日の予定

2. 給食準備・参観

教室の配膳・食事の様子の参観

3. 給食試食会

ゆとりスペースにて試食会(休憩を含む)

4. 授業参観

各教室を自由に参観

5. 学校運営についての協議・・・(司会 田村会長)

(1) 協議①(給食、授業参観について)

田村会長:給食と授業の様子を見ていただきまして、給食と授業参観について、ご意見やご感想をお一人ずつ手短で結構ですのていただきたいと思います。給食、授業参観と分けて、お願いします。

小嶋委員:(給食)前向き給食は、特に高学年児童はおとなしく給食を食べていて、コミュニケーションが不足しているのではないかと自分なんかの頃と比べると寂しい気がしました。しかし、給食の時にしゃべることだけがコミュニケーションではないので、先生方のご判断の通りなんだと思います。牛乳アレルギー対応はどうなっていますか。気になりました。給食については、あれだけやってくれる方はいらっしゃるのか。山口栄養士は宝ですね。

(授業)全てのクラスを見ました。出席率も見ましたが。一部のみ5割程度。他は8～9割と高い。父親の出席率が高い。学校での子供の様子に気を配る、興味をもつ、親、

父親が増えているというのは地域の特性ですかね。ありがたいですね。児童は、積極的に授業を受けていた。前はつぶしている子が目にとまった。今日は、はじけている子がいた。小学校ですし、その方がいいですね。保護者の出席率と父親の参加の意識の高さがすごいなと思いました。

山中委員：（給食）アレルギーの対応が大変ですね。大切なことですね。協力して取り組んでいました。山口先生は、カロリー計算大変ですね。貴重な先生ですね。

（授業）教師が丁寧。児童の意見を聞いて引き出して進めている。教え方がよい。子供同士で相談させているのはよい。考えが閉じこもってしまいがちなのでよかった。

草川委員：（給食）低学年は楽しそうに食べていた。高学年はきちんと黙食していました。すばらしいと思いました。

（授業）3年生のクイズは、自分で本から選んでいた。いろいろな問題があり、よく考えて答えも書いていた。すごいなと思い、感動しました。4年生は近くの子と教え合っていた。大切なことだと思う。

中嶋委員：（給食）山口先生の思いが伝わっていて、子供たちもその思いを受けているのではないのでしょうか。前向き給食でも、かんだり味わったり、食べ物への思いをしっかりと受け止めて食べられるよさがある。グループ給食で食べられると逆にはじかれたり、緊張したりする子がいるのではないか。

（授業）クラスの人数が多い中、先生方がよくやっている。1年生も多いですね。30人ですか。昔より元気な子、いい意味でも悪い意味でも活発な子が多い。その子供たちをまとめあげるのは大変だと思う。

真分委員：（給食）おいしい給食を久々にいただきましてありがとうございました。しかも、265円でおいしい給食を食べられるのはすごい。栄養士さんは女性のイメージがありましたが、山口先生もいいもんだと思いました。昔はグループで食べていた。コロナからでしょうかね。

（授業）真剣に取り組んでいた。全学年見ましたが、6年のデジタル機器の発表の声が小さかった。一方で、たんぽぽさんがしっかり発表していた。すごくよかった。

井上委員：（給食）中3の息子が卒アルに山口先生の給食の思い出を書いていました。動画を見せてもらって、緑小の給食がこんなところまで手作りなんだと改めてすごいと思った。食事は、命の危機に直結することで、緑小の給食を作っている皆さん、先生たちの配慮、子供たちの規律のよさが給食にも出ていた。

（授業）アクティブラーニングというのですかね。自分達で調べてまとめて資料を作って発表してそれを聞いて進める。それを指導している先生方はすごいと思いました。

坪山地域学校協働活動推進員：（給食）ニュースで見たが、から揚げ1個、みそ汁、それしか出ないという話題があった。今日のメニューを見て栄養や彩り、いろいろ工夫されていると思った。感謝したいと思います。本当に265円で良いのかな？というメニューだ

ったので、いろいろ工夫をされているんだな、と感じ取れました。

(授業)どの学年の子供についても元気に発言していた。授業とは別だが、校舎が老朽化。隣の教室の声が聞こえてきた。子供たちの声は小さかったが、隣の声が聞こえるために、聞きづらかったのかな。ただ、子供たちはそれほど気にしていなかったようだ。しかし、老朽化は感じた。使い勝手があまりよくないのかな、と感じました。

海老原地域学校共同活動推進員：(給食)子供たちが流れをよく理解して動いていた。どの学年もクラスもすばらしい。最低限の先生の指示で給食の準備が整うのは安全面、衛生面からもしっかり配慮されていますね。いただいた給食もとてもおいしかったです。

(授業)どのクラスも一生懸命取り組んでいた。先生方が引きつける努力をしていることが感じられます。今日だけではなく、日頃から努力されている成果かなと思いました。思った以上に若い先生方が多くて、よく頑張っていると思いました。これからさらに磨きがかかってくるだろうな、と期待と頑張りを見守っていきたい。

田村委員：(給食)給食については、これ以上望むものはありません。児童がビデオを見て、より給食の意識が高まったのではないかと、思いました。

(授業)1年生の保護者の出席率が高い。高学年の方が少しずつ低くはなっていたとは思いますが。先生方が分かりやすい授業を心がけていた。工夫し、子供たちの意見を吸い上げて具現化して他の子供たちに伝えるということをどの学年もしているのに声が小さい。早口になってしまう。プレゼンの仕方を事前にアドバイスをしてから始めるとさらによりものができるのでは。

(2)協議②(本年度の重点等について)

田村会長：校長先生からもう一度重点について話していただいた後に皆さんにお願いしたいと思います。

校長：まず、今、話題になったアレルギーについてです。

田村会長：小嶋様から質問がありましたね。

校長：牛乳アレルギーですね。牛乳に限らず、アレルギーについては、全て対応をしています。牛乳アレルギーのお子さんについては、牛乳は提供しないということでやっています。アレルギーのものが給食に出ない(生いくらやナッツなど)場合は、給食対応なしではあるけれども、アレルギー対応児童ということで、一番先に配膳をするとか、おかわりをしないとか、下野市のきまりになっています。細かな対応を一人一人アレルギーの種類別にしています。アレルギーの対応というのは、一番安心安全に関わっていることなので、細かな配慮をして、全職員が全該当児童のことを分かっているようにしています。今年度は、給食の始まる前の春休み中にアレルギー対応研修をしました。緊張感、危機感をもって対応しています。学年が上がるにつれて、アレ

アレルギーが解除されていく例もあり、変わり際など、ご家庭と連携して細かなことを対応しています。年に1回、必ず医者の診断を受け、管理指導表を書いてもらっている。それに沿った対応をしています。

小嶋委員：大変ですよ。

校長：市内の学校、どこも同じ基準でやっています。

小嶋委員：卵とかね。

校長：一昨年度までは、アレルギーのお子さんがいて、卵を使わない献立にしていました。昨年度から、ご家庭と相談し、除去食として、家庭からもってくるようになった。小学生なので、みんなと同じ物を食べさせたいという親心もあり、代替食になるようなもの等、いろいろな食材を試して対応しています。

小嶋委員：大変ですね。

校長：市内同じ対応でやっています。命に関わることなので。

小嶋委員：昔はアレルギーなんていなかった。

校長：先程見ていただい通り、職員が若いので、細かいところまで指導して配慮していかないと、間違いがあってはならないことなので徹底してやっているところです。前向きかグループかというところですが、職員の中でも議論になりますが、子供はそんなには言わない。グループは毎年、議論になるが、していません。グループになって食べると、リスクが前向きより増える。乳アレルギーは、触わっただけでだめなこともある。その子がいるクラスだけ前向きになります、ということは教育的にはやりたくない。少数派を尊重したいと考えています。それから、前向きだと準備も片付けも整然とできて、昼休みがたっぷりとれるということもあります。昨年度くらいから少し給食中の指導を緩やかにしています。食べ終わったら、近くの人としゃべっていいよ、などと不自由さは子供たちも感じていないのかもしれない。この先しばらくは、学校としては、このままいこうと考えています。給食費のことですが、265円では食べられないですよ。これで成り立っているのは、お米の補助があります。しかし、恒久的ではない。質と内容を維持するには、給食費の問題については、どこかで議論していかなければならないこと。校長としては、食が子供に与える影響は大きい。本校は、給食で頑張れる子が多い。食育というが、給食まで頑張ろう、給食食べにおいて、がすごく効果的。緑小の給食の質、栄養士の愛情と責任もあり、給食費について聞かれた際には、そう答えるようにしている。是非後押ししていただけるとありがたい。

授業のことですが、授業を見ていただき、人数が多い、との反応でした。本校は単学級なのですが、市内の中では、1クラスの人数が多い。35人がMAXだが、大体30人以上なので、教室はぎゅうぎゅう。経験の浅い教員がコントロールするには、苦勞するところもある。そういうところが、元気のよさや意見が出てコントロールしにくいと言うような授業の場面になっていたのだと思います。ただ、若さを強味に変えていかないと学校の良さにはなっていないので、そこをカバーしていけるようにしたいです。

担任の平均年齢は26歳。2年目からはベテランだよと言っている。授業を見ていただいても、子供のエネルギーと教員のエネルギーがぶつかっていかないとうまくいかない。難しいところではあります。昭和が支え、平成が指導して令和が育つ。給食については山口に伝えます。授業についても励ましていただいたと職員に伝えます。

今年度の重点ということですが、学校の組織としては、ブロックとしてやっていくところなんです。今日は学級担任の授業でしたが、給食の指導や朝の会を交換してやったり、算数の授業をチームで進めたりしています。お互いの安心感につながっている。成果も感じています。学校評価で変化を見ていきたいと思っています。安全が重点になっています。とうとう、昨日は、外遊びを禁止にした。ギリギリまで粘りましたが、昨日は指数が32になってしまい、禁止にしました。また、昨日は、5分おきに教頭と雷の状況を見て、無事、下校時刻に子供を帰すことができました。既に2回雷の引渡をやっています。夏休みになるまでに、雷が心配です。この前の引渡の際は、さらに学校のメール機能がサーバーがショートしてしまったため、保護者にメールを出すことができなかった。ほどなく復旧したが、そういう時の心配もしなければならなかったところなんです。3つ目。授業のこと。聞いて考えて深める。今年度は聞いたことをもとにさらに考えて深める、というところを重点としてやっています。各担任も意識してやっている。たんぽぽでやっていた授業は、ディベート。まず、話を聞くことを大切に、普段から指導してきた。聞けば質問が出る。友達の質問に答えたくなる。随分成長してきました。ああいうことをやると他の場面でも話が聞けるようになる良さがあります。

ということで、安全、ブロック制、授業、3つ挙げさせてもらいました。

田村委員：本年度の重点について説明いただきましたが、どの点においてもよいが、何かご意見や質問はいかがですか。

小嶋委員：外遊びを禁止すると今の子は、文句は言わないのか。自分が子供の頃はえ？となったが、どうですか。

校長：毎年やっていることなので。保健委員会が表示を出しています。カラーコーンが非情にも出され、え～という声も聞こえますが。1年生では、室内でどんな楽しいことができるかな？と言う学級活動をやっていろいろ考えさせていました。室内の日はタブレット OKということもあり、「なら、いいよ」と子供たちも思っているのかもしれませんが。

小嶋委員：今時ですね。

田村会長：他に何かありませんか。

小嶋委員：算数の授業。分からない時に周りの子が教えていました。理科とか算数。できないの子供の差があるようなときに、最初からグループでやるようにしているのですか。

校長：意図的なグルーピングということですね。技能的なこと、家庭科で得意な子が苦手な子が教えることもあります。意図的ではなく、自然と助けるような流れもあります。

小嶋委員：その時に一つ気になったのは、答えを教えていることもあった。答えを教えてはいけ

ないと思う。

校長 : ということもありますね。子供はここに行けば答えが分かるというのも分かっているから、そういうこともあるかもしれません。

田村会長:他に何かございますか。

真分委員:昨年に引き続き2年目ですが、第1回の時に緑小のグランドデザインをいただいた。スローガンがすごく好きです。一人の10歩より10人の一歩。

校長 : どうしても職員の数も少ないので、補い合いながら、ということがベースにはなっています。そこがうまく機能していくと組織として強くなっていくと思うのですが、難しいところですね。

真分委員:今の若い先生はどんな感じ?

校長 : 物怖じしないところはあると思います。堂々としている部分があります。大丈夫?とこちらが心配し、気をもんだりするのですが、大丈夫です!という感じ。

田村会長:ブロック制についてですが、昨年から取り組んでいると思います。学校評価はまだですが、校長先生から見た成果は何かありますか?

校長 : 一番の成果として考えられるのは、風通しのよさ。自分のことだけしか考えないのではなく、隣がどうなっているか?と考えられるようになった。体育の授業も全てブロックでやっているの、水泳では、子供の人数は多いが、職員の人数も多いので安全について配慮できる。職員室で子供の話題が自然と出る。みんなが知っている。知らない子がいないというのがブロックのよさでしょうか。

田村会長:みんな育てているというのがいいですね。

校長 : 反面、これから気を付けていかなければならないのは、責任の所在が曖昧になるという一面もあるかもしれない。その辺は昭和が埋めていくしかないのかな。

田村会長:だんだん機能しているという感じがですね。

中嶋委員:ブロック制。多くの目で子供を見ていこうというのはどこでも言われていることだと思います。職員室でみんなで子供の話ができる、風通しが良い、と聞いてとてもいいと思った。子供は、この先生に見せる姿とこっちの先生に見せる姿が違うこともあるのでいいな、と思ってお聞きしました。

坪山地域学校協働活動推進員:重点の中の授業で、聞いて考える深める。一度ではなかなか、子供たちには、浸透しない。あとは、先生がそういう意識をもって授業に臨む工夫。どんな工夫をしているか。

校長 : 国語で研究をしているところですが、今年度のキーワードは再構築。再構築するには、はじめ、自分の考えがなければならぬ。それには時間が必要。考えをもたせる、というのがまず一つですね。考えがもてたら話し合う。話し合う時に、何のために話し合うのかが明確でないと深まらない。二つ目の工夫としては、話し合う目的を明確にする。今年度は、それを踏まえて、最初の自分がもった考えと比較する。友達の考えと関連付ける。そこが3つめの工夫。そこで再構築する。最初の自分がもった考えと、友達と

交流した後にもう一度考えた自分の考えがどんな風に違うか自覚させる。それが、今年度のテーマとして「深める」につながっているところです。まず考えをもつ。交流する。もう一度自分に返す。それで再構築する、というのを学校課題のテーマにして進めているところです。言葉で言うとはすごく高尚なことなんですけど、実際1年生でも、今回のたんぼの授業もそうでしたが、最初に自分の考えをもつ。友達に理由を聞く。最後にもう一度考える。自分の考えが変わっても変わらなくても、深まったことなんだよ。やっていることは当たり前のことなんです。

海老原地域学校協働活動推進員：安全に関することは、こういう気候。このご苦労は、頭が下がる思いです。食の安全から気象情報。人間関係。すごく気を遣われているのではないかと。地域の方々にも分かって欲しいです。

田村会長：校長先生からご丁寧に説明いただいたので、私たちもそれをかみしめて、保護者の方々と一緒に児童を見守っていきたいと思います。これで、協議は終わりにします。

6. 今後の予定

・第3回学校運営協議会・・・2月2日(月)14:00～15:30 学校評価、職員との懇談会

・二中学区学校運営協議会・・・9月25日(木)第二中学校にて

詳細は決まり次第お知らせいたします。

○その他の学校行事について。皆様に出席していただきたいもの。

・10月2日(木)・・・下野市児童表彰式(9:00～9:45)

・11月1日(土)・・・運動会(午前のみ)：雨天11月2日(日)順延

・3月18日(水)・・・卒業式

10月2日に関しては、後ほど、ご連絡を差し上げます。アンケートは職員に共有させていただきます。